

西区社協発第230号
令和6年10月25日

会員各位

社会福祉法人
横浜市西区社会福祉協議会
事務局長 安部 力

西区社会福祉協議会 会員全体研修 開催について（ご案内）

日頃から本会事業の推進にご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、本会各種会員を対象としました標記研修会を次のとおり開催いたします。
本研修は、昨年度実施しました「社会福祉協議会のネットワークを活かして会員間のつながりを広げる研修」の第3弾となります。
つきましては、お忙しい中恐縮ですがご参加くださいますようご案内申し上げます。

- 1 開催日時 令和6年11月25日（月） 13:30～15:30
- 2 開催場所 西区福祉保健活動拠点「フクシア」
- 3 内容 「誰もが自分らしく暮らすために、多様性を認め合う」
～当事者の言葉を聴き、ひとり一人の個性を認め合う“まちづくり”をみんなで考える～
- 4 企画協力 ①チームにしまる（みんなが主役のまちづくり委員会）
②西尾 敦史 氏（愛知東邦大学教授／にこまちプラン策定アドバイザー）
- 5 申込み 参加申込書にて11月15日（金）までにお申込みください。
※同封のチラシをご参照ください
- 6 その他 参考資料として、前回の全体研修のまとめを同封しますので、
ご一読いただきますようお願いいたします。

【担当】 関野、原田
TEL:450-5005 FAX:451-3131

西区社協の代表メールアドレスが変更となりました。
新) info-nishi@yokohamashakyo.jp

令和6年度 西区社会福祉協議会

ネットワークを活かして西区地域福祉保健計画(にこまちプラン)推進の協働について考える

会員全体研修

今年度も、会員のみなさまとのつながりを深め、改めて「地域福祉の推進」について一緒に考える研修を実施します。

所属分野(高齢・障害・児童・ボランティア・地区社協…)を横断し、共有を図り、横のつながりを広げましょう。

〈内容〉

「誰もが自分らしく暮らすために、多様性を認め合う」

～当事者の言葉を聴き、ひとり一人の個性を認め合う“まちづくり”をみんなで考える～

企画協力: チームにしまる(みんなが主役のまちづくり委員会)

にこまちプラン策定アドバイザー 西尾敦史氏(愛知東邦大学教授)

〈日時〉

11月25日(月)

13:30～15:30

〈場所〉

西区福祉保健活動拠点 フクシア

(西区高島2-7-1 ファーストプレイス横浜3F)

〈申込〉

11/15(金)までに裏面申込先へお申込みください



R6 西区社会福祉協議会 会員全体研修

参加申込書

〈日時〉 令和6年11月25日(月) 13:30~15:30

所属(施設/団体)名	
------------	--

参加者 お名前	電話 ※本会から連絡を入れる場合の番号	職種など

*定員になり次第、締切となります。万が一、受講できない場合はご連絡させていただきます。

*お寄せいただく個人情報につきましては、今回の研修会にのみに使用し、他に使用することはありません。

●問合せ・申込み●

社会福祉法人 横浜市西区社会福祉協議会

TEL: 045-450-5005 FAX: 045-451-3131

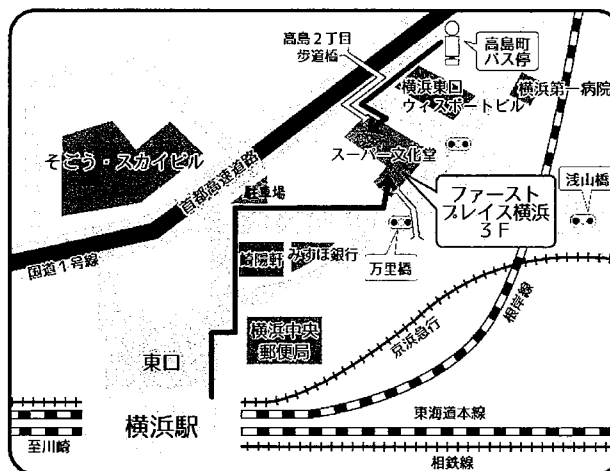
Eメール: info-nishi@yokohamashakyo.jp

〈会場〉 横浜市西区社会福祉協議会 ・横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」

所在地: 横浜市西区高島2-7-1
ファーストプレイス横浜3階

*駐車場、駐輪場はございませんので、
公共交通機関をご利用ください

*建物に複数の入口がありますが、西区
社会福祉協議会・西区福祉保健活動拠点
「フクシア」への入口は、ウイサポート
ビル側のみです。



令和5年度 会員全体研修 報告

受講者数	48人 うち 施設関係 13 / 民生委員 5 / 地区社協 10 / 自治会町内会 5 / 当事者関係 4 / ボランティア団体 4 / 他福祉関係団体 7 ほか区 2 区社協 9	
① 分科会報告	昨年度の会員全体研修での意見から今年度の各分科会の取組み内容について概要説明	
② 導入講義 要旨	<p>(1) にこまちプラン区全体計画 第4期のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉施策の動向 ⇒ 地域共生社会、社会福祉法等改正 ・計画の推進主体は？ ⇒ 西区に関するすべてのみなさん〈できることを協力して〉 ・どんな社会を目指す？ ⇒ 誰もが役割をもって支えあいながら暮らせる地域 ・社会福祉協議会は地域福祉の推進役 ⇒ かつて「地域福祉活動計画」今「地域福祉保健計画」 ・課題別分科会 ⇒ 協議会＝課題解決をコーディネート <p>(2) にこまちプラン5つの目標</p> <p style="padding-left: 20px;">①安心・安全/②健康づくり/③地域共生/④地域づくり・つながり/⑤子どもの成長</p> <p>⇒ それぞれの分野に関わる者どうしが、お互いを知り合いながら「できること」を考える</p>	
③ 【ワーク】 区計画の 目標ごとに 意見交換 ・ アイデア出し	<p>【目的】 にこまちプラン推進のために、「自分たちが行っていること」や「現状、感じている課題」「連携の可能性」について、参加者同士で意見を交換し、理解を深める</p> <p>【進め方】 にこまちプラン区計画 5つの目標のうち3つをチョイスし、目標ごとにテーブルを分けます</p> <ol style="list-style-type: none"> ①に対し、関心を持った目標のテーブルで意見交換をします ②意見交換する中で連想したことを〈こんなことできたら・あったらいいな〉を書き出します ③書いた〈カード〉を見せ合い、テーブルの模造紙に並べます ④一連の作業を60分で行います 	
ワーク意見 より (抜粋)	課題感: 足りないと感じること、あったらいいと思うこと	可能性: 今後できそうなこと、協力してできそうなこと
	地域住民のコミュニケーションの場としてのイベントが少ない	イベントの復活(ハザー)
	小さな単位で集まりの機会を増やしたい。近隣同士のつながりを深めたい。	
	異なる世代同士が交流できる機会を作りたい →人材発掘	各々の特技を活かしたつながり 教え合ったりで種々なきっかけ作り
	若手世帯の自治会行事参加→高齢者も	小さな単位で交流の場を作り続けていく
	ジュニボラっていいなと思っています。	小中学生から地域の活動に参加してもらう
	子供と老人の交流の場があったらいいな	シニアの行事を子供会に手伝ってもらう等して交流のきっかけをつくる
	子どもとシニアの集える居場所	高齢者と地域の子どもをつなぐイベントを、ケアプラザを利用して行う
	とにかくすべての役割やイベント等の後継者がいない。どんどん高齢化していく。	近くの機関・住民・他職種との交流、発信して知ってもらう 名人・達人で特技を発信してもらう
	更生保護に対する一般の方の認知度が低い。更生保護・保護司の紹介をしていただきたい。	非行防止教室(出前教室) 問題行動の相談業務
	集まるスペースはあるが、機会ができない	高齢者対象の認知症についての勉強会や映画会等
	子どもがとびこめる場所	にげこめる場所 ガッツビート白いたてもの
広報力の不足によりイベントのお知らせが廻っていない	情報発信講座 集合or出張型?	
イベント参加への送迎、移動支援 車&付き添い		
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な所属の方々から、日頃の活動の現況や課題感、連携の可能性について伺うことが出来ました。 ・挙げられた課題感に即応できそうなご意見もありましたが、【若者層の参画】【担い手不足】【移動支援】などについては、なかなか名案がないのが現状です。 ・コロナ禍で3年間地域の活動が休止・縮小されていた影響か、【交流】や【イベント】に期待する意見も複数の方が挙げられていました。「地域のつながりがやはり必要」という気持ちの表れかと。 ・施設系の方からは、「もっと地域と関係を築きたい」という意見が出ていました。地域の社会資源として「地域のいろいろな方に知ってもらって、活用してもらいたい」… そのためには…【情報発信】がカギになってくるのではないかな、と。 	